

# 目次

序	岩谷十郎	v
転換点としてのGPS捜査判決？	小山剛	一
言葉／意味／権力		
——トランプの場合、天皇の場合——	駒村圭吾	三
グローバル化世界と憲法制定権力	山元一	四
ドイツにおける裁判テレビ中継と裁判の公開		
——二〇一七年の裁判所構成法改正を手がかりに——	鈴木秀美	七
日本における対内直接投資規制の変遷	渡井理佳子	九

「生存権」の財政統制機能に関する覚書	山本龍彦	一三
公益法人制度改革・法人格取得・結社の自由	横大道 聡	一四
立法プロセスの裁判所による法的統制の可能性と限界	川崎政司	一七
ドイツ基本法における「集会」の概念をめぐる最近の議論	岡田俊幸	二〇
選挙活動規制立法と国民主権原理		
——「ロック主義への高度な回想」から見た政治的表現の自由の保障——	青柳卓弥	二七
アメリカの公共交通システムにおける憎悪煽動的な意見広告（ヘイト・スピーチ）の規制についての一考察	小谷順子	二六
議会上院の選挙制度構想		
——参議院議員選挙区選挙の合区解消に向けた一考察——	新井 誠	二八

エーゲンシー・ショップと結社の自由 —— Friedrichs 判決を契機として——	岡田順太	三二
多文化共生とコミュニティ	築山欣央	三五
イギリスの反社会的行動対策に関する憲法学的検討序論	岩切大地	三六五
生ける憲法と憲法訴訟 ——合憲性審査としての立法事実——	大林啓吾	三九五
憲法解釈における「生ける樹」理論と司法積極主義	手塚崇聡	四七
議会の自浄機能という神話	小林祐紀	四五五
行政裁量と人権 ——君が代懲戒処分事件判決における人権論の領分——	堀口悟郎	四七九

「健康権」の法的性質

—— ニコラウス決定と基本権ドグマテーイクの揺らぎ —— …………… 石塚壮太郎 …… 五〇七

大沢秀介教授略歴・主要業績 …………… 五三三